

「水辺の楽校活用協議会」について

「水辺の楽校」の整備にあたり、民間団体や教育関係者らをメンバーとする「水辺の楽校プロジェクト」を組織し、整備内容等について勉強会やワークショップを開催して検討を進めてきました。

そして、高水敷の整備が概ね完成した今年4月に維持管理や活用方法を検討し、運営するために「水辺の楽校活用協議会」（構成員：「水辺の楽校プロジェクトメンバー」）を発足し、効果的な活用を図ることとしています。

「水辺の楽校活用協議会」構成員の募集について

妻有大橋右岸の高水敷は、小・中学校の課外学習や自然観察会、各種イベントなどの場として多くの市民に利用されています。

「水辺の楽校活用協議会」では、「水辺の楽校」の愛称を「つまりっ子ひろば」と命名し、地域の総合学習の場として、効果的な活用がはかれるように多くの人たちに参加していただき、運営を進めていくこととしています。

つきましては、「水辺の楽校活用協議会」に参加していただく会員を広く募集していますので、希望される方は下記事務局へ応募願います。

「水辺の楽校」の開校式について

このたび、高水敷の散策路やトイレ施設の整備が概ね完了しましたので、下記の日程で開校式を開催しますのでお知らせいたします。

会場には、昨年、十日町中学校の生徒たちが作成した「河川環境美化PR看板」が展示され、式典の後、高水敷に設置されます。また、近隣小学校の生徒による課外学習や稚魚の放流が行われます。

「水辺の楽校」開校式

日時：平成13年7月11日（水）14:00～
場所：十日町市下島地先（妻有大橋上流信濃川右岸堤防広場）
主催：水辺の楽校活用協議会・国土交通省信濃川工事事務所
後援：十日町市・川西町
内容：式典及び記念植樹 等

愛称「つまりっ子ひろば」とは

中魚沼・十日町地域は古くは妻有庄（つまりのしょう）などと呼ばれ、その名前は現在でもこの地方を指す呼び名として広く親しまれています。「つまりっ子ひろば」はそこに住む地域の子供たちが元気に遊び、信濃川と親しみながら地域独自の歴史や文化を学んでいく場として名づけられました。

河原の動植物シリーズ(1)



●ミヤマシジミ(上オス 下メス)

ヤマシジミ「シジミチョウ科」

ミヤマシジミは、主に河原周辺の草地に発生します。チョウは一年に3・4回程現れ、幼虫が食べるコマツナギ※の周辺に集まります。

後翅裏面の外縁オレンジ帯の黒斑中に強い輝き（青色鱗）を持つのが特徴です。

雄は明るい青紫色で外縁の黒帯が細く、雌の翅表は褐色です。

分布は、本州（中部地方でも限られた河原、その限られた河原に十日町市下島が該当します。）

※コマツナギ（マメ科）

樹高50cm。落葉低木。夏に美しい紅紫色の花をつけます。

信濃川水辺の楽校

創刊号 平成13年6月25日発行

つまりっ子ひろば

「水辺の楽校」の概要について

十日町地区周辺の信濃川は、我が国有数の河岸段丘を形成し、丘陵とその緑に囲まれた豊かな自然環境の中を流下し、河道内にはシロヤナギ、ハリエンジュ（ニセアカシア）をはじめとする高木樹林、アキグミやネコヤナギ等の低木林、また、カワラヨモギやカワラハハコなどの草本類に恵まれた緑豊かな高水敷が広がっています。

さらに、この高水敷には「新潟のすぐれた自然の保全対象種」に指定されているミヤマシジミが生息しています。

これらは信濃川の十日町地区らしさをかもし出す個性とも言え、この豊かな自然環境を活かした積極的な活動を展開している団体もあります。

このような折、当時の建設省河川局では、平成8年度より新規施策として、現代の子供たちが置かれている状況を踏まえ、河川の持つ様々な機能を最大限に活かし、河川等を身近な自然教育の場として整備する「水辺の楽校プロジェクト～わらべ歌の聞こえる水辺づくり～」事業をスタートしました。

これを受けて、平成11年度より国土交通省信濃川工事事務所と十日町市では、自然教育・体験学習をより安全に実施できるように、河川環境の整備を進めています。



コマツナギの蜜を吸うミヤマシジミ

（平成13年5月7日撮影）

施設概要

- 高水敷公園／231,000㎡
 - 散策路／2,613m (W=4.0m:L=1,378m W=2.0m:L=1,235m)
 - 堤防高水敷側階段／2箇所 (W=5.0m)
 - 歩道橋／2箇所 (L=14.0m 上流側W=4.0m 下流側W=2.0m)
 - 駐車場／1,125㎡
 - 池(ワンド)／3,200㎡
- 水防公園(仮称)／6,856㎡
 - トイレ施設(水防倉庫併設)／男性用1個、女性用1個、身障者用1個
 - 駐車場／580㎡